

教出 二年 第一次指導 一時間扱い

アレクサンダとぜんまいねずみ

〔区画〕八区画(教科書の110の二行目を7)

一よむ 八名

二とく(読後感整理の話し合い)

○ 題目(題名を手がかりに話の輪郭を確認)

・ 二匹のねずみ名前は。本物は、ウイリー。

・ 玩具の動きは。持ち主は。

◎ ひびき(話の響きを感じる。伏線になる)

・ 二匹のねずみがいる絵を開けて。場所は。

・ 二枚目の絵 ウイリーは。

・ もう一枚の絵 二人が何を喜んだ話か。

○ 手引き

・ アレクサンダのいる場所を書き出す。

三よむ(手引きに従い黙読)

四かく(黙読して見つけた単語を視写)

五よむ 指黙読・指音読(板書されたもの)

六とく(板書をもとに概観する話し合い)

○ 事実・区分(板書された事項を関連付ける)

・ 小道に誰が。ウイリーの変化。変えたのは。

・ 何をもっていった。紫の小石はどこに。

・ 願いの変化。その話を聞いたのは。

・ 二匹の話は。一緒(一か所)。

・ 一緒に踊れるようになった訳。四区分。

◎ 山(話の山場を探す)

・ 願いを中心に 3, 6, 7を

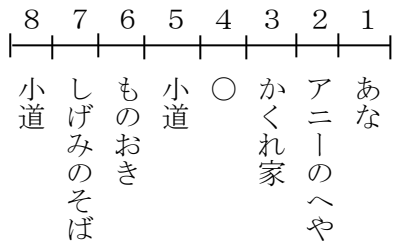
七よむ(板書を読む 今回は全文読み)

〔板書事項〕

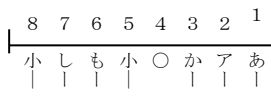
第一次指導

アレクサンダとウイリー

ぜんまいねずみ



第二次指導



アレクサンダはウイリーを

うらやんだ。

「ああ！」

と、かれは、ためいきをついた。

「ぼくも、ウイリーみたいな

ぜんまいねずみになって、

みんなにちやほや

かわいがられてみたい

なあ。」

第二次指導 三時間の一時間目

一よむ 八名

二とく(学習の足場を作る話し合い)

○ おさらい

・ (区画を板書後)二匹が友達 何番。ダンスは。

・ 踊れるのは誰の力。どんな力。その話は。

・ 承接(前を受けて本時につなぐ話し合い)

◎ 二匹の出会いはどこ。話しかけたのは。

・ ウイリーの話。(三つ)アレクサンダは。

・ ウイリーの困ったところは。

・ 二匹の様子。

○ 手引き

・ かくれ家にいるアレクサンダは、どうな

かを考えます。

三よむ(手引きに従い黙読)

四かく(黙読しながら視写)

五よむ 指黙読・指音読(板書されたもの)

六とく(板書をもとに心をつかむ話し合い)

○ 語義・区分(難語句の解消と区分する)

・ うらやむ ! ためいき ちやほや

・ したこと思ったことに二区分。後を二区分

◎ 心(文章の核心をつかむ。味わう)

・ アレクサンダは、自分もどうされたいの。

・ どんな可愛がられ方を。

・ どうしたらそうなると思ったの。

・ ぜんまいねずみになりたい思いの強さは。

七よむ 指音読(板書を全員で音読)

第二次指導 三時間の二時間目

一よむ 八名

二とく(学習の足場を作る話し合い)

○ おさらい

- ・ ウイリーと過ごした後のアレクサンダは。
- ・ 自分はどうなりと。

◎ 承接(前を受けて本時につなぐ話し合い)

- ・ ウイリーの話の不思議な話は。
- ・ とかげの居場所は。色は。大きさは。
- ・ 変身の条件は。石はすぐに見つかったか。
- ・ 探しつかれて戻って、見たものは。

○ 手引き

- ・ ウイリーとアレクサンダの話を書く。

三よむ (手引きに従い黙読)

四かく (黙読しながら視写)

五よむ 指黙読・指音読(板書されたもの)

六とく(板書をもとに心をつかむ話し合い)

○ 語義・区分(難語句の解消と区分する)

- ・ 明くる日、ためいきまじり すてられたんだ
- ・ ぼくら 行きさ なかんばかり
- ・ ウイリーとアレクサンダの言ったこと
- ・ で二区分

◎ 心(文章の核心をつかむ。味わう)

- ・ アレクサンダの思ったこと。その強さは。
- ・ その訳をウイリーのどんな様子から。
- ・ ウイリーの気持ちが強くて出ているのは。

七よむ 指音読(板書を全員で音読)

〈板書事項〉

第二次第二時指導

アレクサンダ うらやむ ウイリー

← ちやほや

ぜんまいねずみ

とかげ

月 まん丸満月

むらさきの小石

「明くる日、」

ウイリーは、ためいきまじりに言った。

「古いおもちゃが、たくさんこのはこにすてられたんだ。ぼくらは、みんなごみばこ行きさ。」

アレクサンダは、なかんばかり。

「かわいそうに、かわいそうなウイリー!」
かれは思った。

第二次第三時指導

ものおき

絵(玩具の箱)略

アニー
パー プー

「おまえは、だれに、それとも、何になりたいの?」

「ぼくは……」

アレクサンダは、言いかけてやめた。そして、とつぜん言った。

「とかげよ、とかげ。ウイリーを、ぼくみたいなねずみにかえてくれる?」
とかげは、まばたきした。目もくらむような光。そして、すべてがしいんとしずまりかえた。

第二次指導 三時間の三時間目

一よむ 八名

二とく(学習の足場を作る話し合い)

○ おさらい

- ・ みんなにちやほやされて、うらやんでいたウイリーのことをかわいそうだと思ったのは、どこで。それまでは、どこにいたの。
- ・ ウイリーが、そこにいるわけは。
- ・ 誕生日で新しいおもちゃができたので、古いおもちゃは、いらないと捨てられた。

◎ 承接(前を受けて本時につなぐ話し合い)

- ・ ウイリーの話を聞き終えたアレクサンダの目に入った物は。
- ・ 小石を見つけたアレクサンダの行動は。(どうした) どのように どこへ 何をした)
- ・ とかげの下確認事項二つ。
- ・ 二匹の様子は。

○ 手引き

- ・ とかげとアレクサンダの言ったことを書く。

三よむ (手引きに従い黙読)

四かく (黙読しながら視写)

五よむ 指黙読・指音読(板書されたもの)

六とく(板書をもとに心をつかむ話し合い)

○ 語義・区分(難語句の解消と区分する)

- ・ 「、」、「……」? とつぜん くれる
- ・ 話とその後とかがで二区分。話者確認。

◎ 心(文章の核心をつかむ。味わう)

- ・ アレクサンダは、誰のことを考えているか。
- ・ ウイリーをどうしたいと。助けるにはどうすればいいと。そのことに気づいたのは。
- ・ 不思議な雰囲気

七よむ 指音読(板書を全員で音読)

第三次指導 一時間扱い

一よむ 八名

二とく(学習の足場を作る話し合い)

○ おさらい

- ・ 大急ぎでトカゲのところへ、その月は。
- ・ 腕に抱えていたのは。
- ・ 何と言いかけたて、誰のことを考えたか。
- ・ お願ひしたことは。

◎ 承接(前を受けて本時につなぐ話し合い)

- ・ 魔法がかかったときの様子。

○ 手引き

- ・ 漢字を書いて学習する。

三よむ (手引きに従い黙読)

四かく (黙読しながら視写)

五よむ 指黙読・指音読(板書されたもの)

六とく(板書をもとに心をつかむ話し合い)

○ 文中の位置

- ・ 四区分にわけける。(友達 2、3、8)
- ◎ こもる力(文章での言葉の働き 字眼・利字)
- ・ この話で一番大切な言葉は。
- ・ 本当の友達を示す言葉は。(反対も)
- ・ 発展 四方 八方 花々

同じ意味の言葉(用心深く 夜明け)

七よむ 指音読(板書を全員で音読)

〈板書事項〉

第三次第一時指導

